

令和5年度
後期試験(論述)

【 人間学群 教育学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
出題意図	<p>【問 1】 筑波大学人間学群教育学類の4つの系列(人間形成系列、教育計画・設計系列、地域・国際教育系列、学校教育開発系列)のうち、自らが特に学びたいと考える系列は何か。その系列が示す内容、およびそこで学びたいと考える理由について、200字以内で説明しなさい。</p> <p>【問 2】 以下の文章を読み、問に対して解答しなさい。</p> <p>(この部分は、著作権の都合上、公開できません)</p> <p>【出典】 マーサ・C・ヌスバウム著(小沢自然/小野正嗣訳)『経済成長がすべてか?— デモクラシーが人文学を必要とする理由—』岩波書店、2013年、3-4頁。(一部改変)</p> <p>問 著者が考える「デモクラシーの存続に必要な^{スキル}技能」(下線部)とは、どのようなものであろうか。その説明を行った上で、デモクラシーの存続のために、日本の初等・中等教育で児童・生徒をどのように教育していく必要があるのかについて800字以内で論じなさい。</p>

後期日程の試験では、当初予定の集団面接、集団討論に代わり、論文により応答性、論理性等を評価することになっている。

【問 1】は、面接において評価の対象となる、受験生の志望の強さを見定めるための問いである。本学教育学類に対する関心を有しているかは、教育学類の特徴の一つとしての4つの系列をどれほど正確に理解しているかによって判断される。

【問 2】は、教育への関心、および<応答性>と<論理性>を兼ね備えているかを判断しようとするものである。

著者は「民主主義の存続に必要な技術」に関連して、直後の文で「自らものを考え、伝統を批判し、他人の苦悩と達成の意味を理解できる成熟した市民」と言及している。また、次の段落では、現代の初等・中等教育・高等教育において世界規模で切り捨てられつつある人文学と芸術とが「想像力や創造性に関わる側面、厳密な批判的思考に関わる側面」を有していることの重要性を説明している。これらをふまえると、民主主義の存続には、伝統を批判したり、他人の苦悩と達成を理解できるといったような公共的に思考できたりする技術が必要であり、それには想像力や創造性、批判的思考が備わっている必要があると著者は考えていると推察できる。

想像力や創造性、批判的思考を日本の学校教育においていかに育むかについては、例えば、画一的な教育から脱却する必要性の認識から出発し、他者とともに協働で複雑な社会的課題の解決策を考える学習の必要性を言及するような解答が期待される。日本の学校教育の特徴をどのように捉えているか、それが、想像力や創造性、批判的思考等、民主主義の存続に必要な技術の育成にとって十分なのか、不十分なのかを判断し、教育の具体像を描けているか、それを論理的に説明できているかを採点の観点とする。